

わたしたちの意見を市政に

牛久市中学生模擬議会

8月22日、市議会議場で「平成24年度牛久市中学生模擬議会」を開催しました。この模擬議会は、牛久市の将来を担う中学生に、地方自治の仕組みや市の政策決定過程、市議会の運営方法などを体験し理解してもらいながら、牛久市のまちづくりへの参画意識を持ってもらうために行っているものです。市内各中学校の3年生14人が参加し、中学生から市政に対し新鮮味あふれるさまざまな質問が出され、市執行部も定例議会同様に熱心に答弁しました。



杉原大輔さん(牛久南中)：地震対策について

市長 水の確保については、飲料水兼用100トンの耐震性防火水槽が、みどり野第一児童公園、刈谷第二児童公園、岡田小学校に各1基設置しており、新たに田宮に1基設置予定です。さらに給水車が1台準備されていて、第一次避難所となる行政区集会所に飲料水用井戸を17カ所順次整備予定です。食料については、市の防災倉庫にお粥や米を中心に1万人分を備えています。



鈴木幸大さん(牛久一中)：スポーツ施設の充実について

教育長 牛久運動公園体育館内トレーニング室、ひたち野うしく小学校プール・スタジオでは、



大野航汰さん(牛久二中)：牛久市の農業政策について

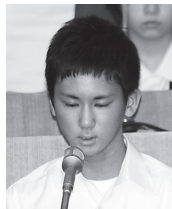
NPOとの協働により施設を運営している、その中で健康運動士資格者による運動指導を行っています。また、現在運動公園野球場を全ての野球種目が行える公式規格の野球場へ改修しています。平成22年度には女化運動広場の天然芝生整備改修、23年度には牛久運動公園・奥野運動広場のテニスコートを手動から人工芝のコートへ改修しています。

の担い手不足の解消と市民の働く機会の提供を目的に、平成19年から「農業ヘルパー制度」、21年から「農地バンク」を開始しました。また、平成23年2月に市が100%出資し「うしくグリーンファーム株式会社」を設立しました。皆



為貝美帆さん(牛久一中)：上水道の安全確保について

市長 県企業局では利根川や霞ヶ浦から水をとっている地点、浄水場の出口、市町村などの配水池入口の3地点で水を採取し、水質基準160項目の水質検査を実施しています。また、県南水道企業団では、一般細菌、大腸菌など水道法に基づく50項目の検査を行い、結果をホームページで公表するほか、若柴・牛久など各配水場の水の出入口12カ所と配水管流末地点8カ所を毎日、色・濁り・消毒の残留効果を検査しています。



北見駿和さん(牛久一中)：少子化対策について

市長 市では少子超高齢社会に対応した施策を実施した結果、毎年人口が増加し、特に0歳から39歳までの人口が増加しています。保育サービスでは、平成19年から6つの保育園を整備し、定員を700人から1512人に増やし、今後もひたち野



奈良拓海さん(牛久三中)：道路整備について

うしく地区や奥野小の余裕教室を改修した保育園を開園予定です。また、学童サービスを6年生まで拡大したり、土曜日オープンするなどしています。他にも、「マル福制度」の拡大、子宮頸がんやヒブワクチンなどの全額助成、不妊治療の医療費助成など、経済的負担の軽減を図り、安心して子育てと仕事ができる環境を整えています。



保井奏音さん(牛久二中)：牛久市の自然災害に対する対策について

市長 牛久市でも平成22年に竜巻が発生し、家屋などの損

壊が64棟に及びました。市では自ら気象情報を収集するとともに、水戸気象台、県からの「竜巻注意報」などに基づき、防災行政無線、かつばメールなどで情報提供を行っています。災害時の市民への情報発信では、従来の防災行政無線に加え、IBS茨城放送の活用やテレフォンサービスなどの複合的な手段を考えています。断水対策としては、第一次避難所に井戸を設置するほか、第二次避難所への備蓄品の検討、公共施設への太陽光パネル非常用電源設置についても進めていきます。



高橋 玄さん(牛久南中)：これからの牛久市の節電について
市長 現在、電気使

用料金が安価な特定電気事業者、通称PPSへの切り替えが可能な27施設中16施設を切り替え、今後11施設についても切り替えを進めます。また、全ての公共施設へのみどりのカーテン設置、よしず・扇風機活用によるエアコンの使用電力低減、蛍光灯の間引き、パソコンディスプレイの明るさ低減、職員 の服装を節電ビズにするなど全施設で節電に取り組んでいます。また、デマンドコントローラー・LED照明やキャノピースイッチの設置、学校などへの太陽光発電の導入も進めています。



玉井 星音さん(牛久三小)：小中学校の学び合い活動について
教育長 牛久市の教

育は、授業中ただ黙って教師の話の聞いたりするような従来の一斉授業スタイルを改め、分らないことは聴き合いながら、児童・生徒同士で教え合い、主体的に授業に取り組めることを目標にしています。市では平成17年度から全校でこのような「学び合い」を取り入れた授業づくりに取り組んでいます。



松浦 菜月さん(牛久三中)：通学路の安全対策について
市長 京都府や千葉

県で4月に発生した、登校中の児童の列に車が飛び込んだ事故を受けて、危険な交差点の角に、車の飛び込みから守る金属製ガードパイプを設置したり、「止まれ」「スクールゾーン」などの文字を道路に標示し、ドライバークの注意を促す交通安全施設の設置を本年度中に実施します。さらに、交通安全母の会や交通安全協会、交通安全推進員、交通安全指導隊、各学校のPTA地区校外委員、スクールガードリーダーなど、多くのボランティアの皆さんからご協力いただき、安全対策を行っています。



金子 雅さん(牛久二中)：奥野地区における交通手段確保について
市長 当初、奥原・

桂ルートを行っていたかっぱ号は、平成20年のルート変更で、1日の利用者が1・8人と少ないため廃止となりました。市は、各地域の特性に合った交通手段の確保を目指し、「牛久市地域公共交通総合連携計画」を作り、バスは人口密集地域での運行を計画する一方、人口点在地域では、需要があるときに運行するデマンド型という交通手段の確保を計画しています。奥野地区では平成23年から「NPOサンライズ」がデマンド型の過疎地有償運送事業を開始しています。



藤崎 遼太郎さん(下根中)：小中学校施設の耐震化について
教育長 市では震

災前から、震度6強から7程度の大きな地震でも学校が倒れず、人命が失われないようにする耐震補強工事を行ってきました。学校の耐震化では、校舎を優先的に進め、現在実施中の中根小学校耐震補強工事が完了すれば、小中学校校舎は全て耐震化の工事が終了します。次に体育館の耐震化が必要な学校について、国からの補助金を活用

し、平成24年度から27年度の間で順次、岡田小、牛久二小、中根小、向台小、牛久一中、牛久三中について耐震化工事を行います。



小野 陽輝さん(下根中)：高齢社会への対応について
市長 市では地域

とのつながりを再構築するため、各小学校区単位で「地区社協」を設立し、住民の生活課題を協議し、課題解決に向けての取り組みを、地域住民主体による支えあいの活動により行っています。また、元氣教室やかっぱ体操の普及による介護予防への取り組みも継続して進めています。これらの施策を通して、牛久市は、行政主体ではなく市民主体で少子超高齢社会を支えていくという基盤づくりを進めています。



大野 木綿子さん(下根中)：税の使い道について
市長 ご質問の教

育費の今年度予算額は約34億円です。この予算を牛久二小や中根小体育館の耐震補強・大規模改修、運動公園野球場改修、ひたち野うしく小学校舎増築、エスカード生涯学習センター改修、児童クラブや市立図書館の運営など、施設の整備・運営に使用しています。